

寒晴や未だ弔意の文字なさず

藤田湘子

人の一生には多くの出会いと別れがある。長いと思える五十年、百年も過ぎ去ってしまえば弥勒菩薩のまばたきのようなもの。

一句の背景や二人の人物を知っていれば鑑賞は自ずと違ってくるが、人間湘子の思念の深さは「未だ」の二文字に収束する。

湘子が「寒晴」の句を詠んだ前年六月六日に弟子であり盟友でもあった飯島晴子逝去。「寒晴」は冬の季語。しかし、それ以上に、晴子の第五句集名。「寒晴やあはれ舞妓の背の高き」は忘れられない。三大新聞他に追悼文、追悼記事、俳句総合誌にも追悼特集が組まれたが、そこには湘子の念いは、まだまだ書けなかつた。

2001年（H13作） 第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩